

卒業生との絆ニュースNo.14 飛び入学10周年記念シンポジウム

卒業生の皆様へ

西千葉キャンパスの銀杏並木もすっかり落葉し、冬支度も完了!といった風情です。卒業生の皆様、いかがお過ごしですか?

さて、絆ニュースNo.12でご案内させていただきました飛び入学10周年記念シンポジウムが平成12月15日(月)に都内虎ノ門パストラルホテルで開催されました。

会場は教育関係者や文部科学省関係者で満員でした。齋藤学長の挨拶から始まり、有馬朗人元文部大臣・元東京大学総長や銭谷眞美文部科学事務次官の祝辞があり、その後、仁科雄一郎東北大学名誉教授の基調講演・パネルディスカッションと続きました。

ここでは特に印象深かった、有馬先生から飛び出した、飛び入学導入時のエピソードについてご報告したいと思います。

有馬先生が中央教育審議会会長に任じられていた平成7年頃、同じ委員の江崎玲於奈氏や広中平祐氏ら錚々たるメンバーと画一的教育システムの弊害について議論が起こり、異句同音に旧制中学や高校で実施されていた早期卒業などの制度の復活ができないものか、飛び入学が実現できないものか、ということになったそうです。

ちょうどその頃千葉大学長に就かれた丸山工作先生が、飛び入学の積極的賛成論者で、有馬先生の旧制高校の同級生かつ早期卒業コースの履修者ということから、丸山先生に「千葉大でやってみれば。」というお話をされたとのことでした。

丸山先生から「やってみよう。」というお返事があり、実現に向けてのアクションが始まりましたが、想像を絶する困難があったそうです。

マスコミが賛成してくれず、否定的な論調ばかりで、いきおい文部省(当時)の動きも芳しくなかった(「今はそんなことはございません。」とフォローされていました。)ので、丸山君は相当苦労した筈で、真夜中に相談の電話があったことなど、当時を懐かしく振り返っておられました。

平成10年に一学年3名からスタートした千葉大学の飛び入学制度ですが、プログラムも充実し現在4つのコースが存在します。工学部から始まり理学部、文学部も参画しています。

今までに25名の卒業生が生まれ、その内の24名が大学院に進学し、3名が博士号を取得しています。特に3期生の一人は大学を3年で卒業し、大学院自然科学研究科に進学した後、マサチューセッツ工科大学(MIT)に留学し、本年6月にMITで博士号を取得しました。

また、昨年10月には(独)情報処理推進機構が認定する“天才プログラマー”に18歳の在校生が史上最年少で認定されるといったグッドニュースもございました。

千葉大学の誇りである“飛び入学プログラム”について、卒業生の皆様方におかれましては、今後

ともより一層のご支援をお願いする次第です。

シンポジウムの様子はこちら

http://www.chiba-u.ac.jp/graduate/kizunanews/tobinyu_pic.pdf